

# 政策推進部長マニフェスト（評価及び検証）

重点課題 ①

## 柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定

難易度



自己評価



（評価検証）平成 27 年 12 月 31 日  
（最終検証）平成 28 年 3 月 25 日

★何を指すのか、目指すべき方向は？

### 戦略課題の目標

本市では 1997 年を境に人口減少が進んでおり、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口では、2040 年には人口 5 万 5 千人、高齢化率 37%になると予測されています。こうしたことから、人口減少に歯止めをかけ、地域の活性化を図るため、本市の魅力である豊かな自然環境を大切にしながら、利便性の高い都市基盤を整備し、質の高い魅力ある生活環境を創出するとともに、特に教育環境や、子育て環境の充実などにより若年層の定住化促進に取り組みます。

平成 23 年度を初年度とする第 4 次柏原市総合計画では、現在人口を上回る将来人口を目指し、10 年後の目標人口を 8 万人と設定して当該計画を推進していますが、本年度は、地方創生の観点から、新たに「人口ビジョン」、「柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定します。

### セルフレビュー（自己点検）

「柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、外部委員を中心とした本市総合戦略推進委員会で審議し、その位置づけ、計画期間、基本理念、基本方針及び各施策の重要業績評価指標（KPI）などを盛り込み、パブリックコメントの実施を経て、平成 28 年 2 月に策定しました。

また、「柏原市人口ビジョン」は、国の長期ビジョンに合わせて対象期間を 2060 年までとし、国勢調査、各種統計調査及び市民アンケート調査の結果をもとに人口動態等の分析を行い、総合戦略に盛り込まれた子育て施策や就労支援施策による効果を加味して、本市人口の将来展望を 54,381 人として、平成 28 年 2 月に策定しました。

★その実現に向けて、今年度は何をするのか？

### 施策推進上の目標

国の「政策5原則」（自立性、将来性、地域性、直接性、結果重視）の趣旨、「長期ビジョン」、4つの「基本目標」を踏まえ、平成31年度までの5カ年を計画期間とする「柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定します。

この総合戦略では、例として「市内事業所従業者数」、「交流人口」、「子育てしやすいまちと感じる人の割合」などを数値目標とし、その実現に向け、PDCAサイクルに取り組みます。

（最終検証）平成28年3月25日

### 取組結果・実施状況

策定にあたっては、当初の目標のとおり、国が示す政策原則及び基本目標を十分に勘案したうえで、本市の基本方針とそれを支える3つの戦略及び4つの基本目標を定め、基本目標ごとに具体的な施策を記載し、平成31年度までの5年間の計画として策定しました。

なお、基本方針は、『「親世代」から「子ども世代」、「孫世代」へとつなぐ、三世代がよりそう まちづくり』とし、三世代の絆や家族の大切さを深め、柏原市に生れて良かった、住み続けたいと思える暮らしを実現することとしました。

また、毎年度、施策ごとの進捗状況を把握するため、重要業績評価指標（KPI）として数値目標を設定し、PDCAサイクルのもとで、本市総合戦略推進委員会において効果の検証を行い、必要に応じて計画の改定に取り組むこととしました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

## アウトプット

◎柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会の設置及び運営

市内の企業、教育機関、金融機関、労働団体、市民、市職員で構成（10名以内）

◎柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定（年度内）

・本市の人口推移及び将来の展望を勘案し「人口ビジョン」を作成します。

・総合戦略では、次の4つの項目ごとに施策を検討し、5年後の基本目標（数値目標、定性的な目標）を設定します。

「地方における安定した雇用を創出する」

「地方への新しいひとの流れをつくる」

「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」

「時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、

地域と地域を連携する」

また、それぞれの具体的施策については、客観的な重要業績評価指標（KPI）を設定し、当該施策のアウトカムに関する指標を設定します。

（最終検証）平成28年3月25日

## 取組結果・実施状況

◎市内の大学・企業・金融機関・労働団体の関係者と市職員で総合戦略推進委員会を6月に設置し、12月までの間で4回開催し、総合戦略と人口ビジョンの策定に取り組みました。

また、総合戦略に位置づける施策を立案するため、庁内関係課で施策を横断的に検討する「将来構想ワーキング会議」を6回開催し、総合戦略に対する意見聴取や内容整理を行いました。

それに先立ち、若手職員で構成する「柏原暮らし促進検討プロジェクトチーム」を立ち上げ、並行して会議を開催し、今後の施策のヒントとなる報告書の取りまとめを行いました。

◎「柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び「柏原市人口ビジョン」は、11月からパブリックコメントを実施するとともに、推進委員からの提言及び意見を取りまとめ、平成28年2月に策定しました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

### アウトカム

柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、当該施策を推進することで、人口減少に歯止めをかけ、定住化を促進し、持続可能なまちづくりを実現します。

このことにより、市民満足度調査の雇用、産業振興、子育て支援などの項目において満足度を前回数値より高めます。

(最終検証) 平成28年3月25日

### 取組結果・実施状況

この項目の取組状況については、市民意識調査の①就労支援、②商業・工業・農業、③子育て支援の項目について、前回との満足度の数値比較を行った結果、①就労支援は、前回 2.65 から今回 2.88、②商業・工業・農業の平均値は、前回 2.80 から今回 2.95、③子育て支援は、前回 3.24 から今回 3.31 とそれぞれ上昇しています。

本年度は、総合戦略の策定に先んじて、地方創生先行型交付金を活用して事業を実施しており、既存事業に加え、その効果が市民の満足度アップにつながったものと考えています。

なお、来年度以降は、この総合戦略のPDCAサイクルをしっかりと実行していきます。

(評価日) 平成28年2月5日

市長評価

(A) 称賛 : 非常に頑張って目標を達成し、大変満足できる結果である。

市長のコメント

・現在の市民サービスをあらためてチェックし、人を呼び込む施策と併せて、柏原市民を対象にした施策を重点的に取り組むこと。

(最終検証) 平成28年3月25日

今後の取組の方向性など

本市のまち・ひと・しごと創生総合戦略を推進するにあたって、限られた財源の中、まずは子育て支援、教育環境の充実、雇用の創出、就労支援など若い世代の定住化を進める施策に取り組めます。

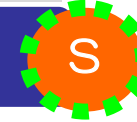
合わせて、将来の超高齢化社会に備え、地域のつながりや家族の絆をサポートする施策に取り組めます。

重点課題 ②

難易度

自己評価

## 公共施設等総合管理計画策定に係る調査業務



(評価検証日) 平成27年12月31日

(最終検証) 平成28年3月25日

★何を指すのか、目指すべき方向は？

### 戦略課題の目標

「ハコモノ」と呼ばれる建物施設や道路、橋梁などの「インフラ」施設の老朽化が進行している中、右肩上がり成長を遂げてきた時代とは異なり、低成長の時代に移行した現在、公共施設等の維持管理、改修、更新にかかる経費は、今後の本市の財政状況に大きな影響を及ぼすこととなります。

また、今後予想される自然災害に備え、防災や減災に資する対策を講じるなど公共施設等が被る被害の最小化に努める必要があります。

以上のことから、市民に安全・安心に公共施設等を利用いただけるよう、施設等の調査・整理を行い、その上で、施設の長寿命化や、機能の統合・複合化などを検討し、施設の効果的かつ効率的な利用、適切な維持管理、民間ノウハウの活用など、平成27年度からの2年間で、中長期的な視点から公共施設等のあり方についての基本的な方向性を示す計画を策定します。

### セルフレビュー（自己点検）

少子高齢化の進行及び人口減少社会の到来、地域や家庭のあり方の変化など、本市を取り巻く社会環境は大きく変化しています。

また、本市の財政状況とその将来見通しが依然として厳しいものであることから、中長期的な視点において、現在、市が所有し管理している全ての公共施設等を建替え等により同様に維持していくことは大きな予算を伴うことから困難な状況にあります。

そこで、公共施設等ごとに、維持していくための費用及び利用者一人あたりのコストのほか、時代の経過とともに変化する市民ニーズにその規模や利用目的などが適応しているかについて把握することで、公共施設等のなお一層の効果的かつ効率的な活用を進めるものです。

まず、本年度からの2年間は、この計画策定業務に取り組み、本年度は、公共施設等ごとの個別調査を実施しました。

★その実現に向けて、今年度は何をするのか？

(最終検証) 平成28年3月25日

### 施策推進上の目標

◎市の財政見通しや人口減少及び利用状況を考慮した公共施設等の老朽化対策（安全性の確保）の推進

- ・ 中長期的視点に立った老朽化対策の推進
- ・ 適切な維持管理・修繕の実施
- ・ トータルコストの縮減・平準化
- ・ PPP/PFIの活用
- ・ 将来のまちづくりを見据えた検討
- ・ 議会・住民との情報及び現状認識の共有

### 取組結果・実施状況

この計画策定業務を進めるにあたっては、当初に設定した「施策推進上の目標」を確認しながら進めることとしました。

本年度は、施設を所管する部署と連携し、全ての公共施設等の個別調査を実施しました。

また、28年度にそれらの資料をもとに目標に沿った計画策定の審議を行うため、外部の有識者を含めた委員会の設置に伴う条例改正を行いました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

### アウトプット

◎公共施設等総合管理計画策定に係る調査業務の実施

全ての公共施設等を対象に、

- ・老朽化の状況や利用の状況をはじめとした公共施設等の状況
- ・総人口や年代別人口についての今後の見通し
- ・公共施設等の維持管理・修繕・更新等に係る中長期的な必要経費や、これらの経費に充当可能な財源の見込みなどを調査します。

◎総合的かつ計画的に管理することができるよう、全庁的な体制を構築し、公共施設等の情報を管理・集約します。

(最終検証) 平成28年3月25日

### 取組結果・実施状況

本年度は、平成27年8月3日に公募型プロポーザル方式で業務委託業者を選定し、公共施設ごとの現状把握を行うため、各施設をそれぞれ所管する部署と連携し、既存台帳の整理や個別調査を実施しました。

個別調査にあたっては、当初予定していた項目を中心に基本情報、コスト情報、サービス情報、建物情報を整理しました。

主な項目は、以下の通り

- ・基本情報  
設置目的、供用開始年月日、敷地面積、管理形態など
- ・コスト情報  
施設使用料等の歳入及び光熱水費、備品購入費等の歳出
- ・サービス情報  
開館日数、利用者数、貸室の状況など
- ・建物情報  
建築年月日、延べ床面積、老化状況、耐震対策状況など

なお、本年度末に、個別調査結果から施設の現況及び分析結果の最終とりまとめを行いました。



★その取組により、何をどのような状態にするのか？

### アウトカム

計画策定過程における情報や検討経過により、個々の公共施設に関する管理運営方針について中長期的観点から直ちに見直しできるものは、先行的に指定管理者の導入や民営化、統廃合などに取り組みます。

また、こうした取組過程や市の考え方を積極的に発信し明らかにすることで、市民満足度調査の「行財政改革」、「財政運営」などの項目において満足度を前回数値より高めます。

(最終検証) 平成28年3月25日

### 取組結果・実施状況

老朽化が激しい公共施設等の個別課題については、健全化戦略会議で検討を行うとともに、本計画策定にあたっての事業者の選定等は公式 WEB サイトで公表を行いました。また、市議会での質問を通して取組状況の情報発信を行いました。

この項目の取組状況については、市民意識調査の①行財政改革、②財政運営の項目について、前回との満足度の数値比較を行った結果、①行財政改革は、前回 2.89 から今回 2.80、②財政運営は、前回 2.82 から今回 2.84 となり、「行財政改革」の満足度が 0.09 ポイント下降した結果となりました。

この取組についての情報発信は次年度からとなりますので、しっかりと情報を発信していきます。

(評価日) 平成28年2月5日

## 市長評価

(A) 称賛 : 非常に頑張って目標を達成し、大変満足できる結果である。

## 市長のコメント

・各施設の更新、統廃合、長寿命化、民営化等を計画的に行うことで、公と民の役割にメリハリを付け、将来の財政負担を軽減、平準化するように取り組むこと。

(最終検証) 平成28年3月25日

## 今後の取組の方向性など

平成28年度は本市公共施設等総合管理計画の策定に取り組むことから、しっかりと資料を整え、外部有識者を含めた委員会で公共施設等の将来像などについて審議します。また、適宜公式ウェブサイト等で情報発信を行い、市民の意見を吸い上げていきます。

## 人事評価制度の確立及び職員定員の適正化

A

(評価検証日) 平成27年12月31日

(最終検証) 平成28年3月25日

★何を目指すのか、目指すべき方向は？

## 戦略課題の目標

人事管理については、権限移譲により増加する事務量や多様化する行政需要に対応するため、適切な職員配置と研修制度の充実を図るとともに、過重労働の防止など職員の健康管理に努めます。

また、市職員が全体の奉仕者として能力を高めつつ、市民の立場に立ち、その責任を自覚し、行政の諸課題に積極的に取り組んでいく職場環境づくりを進めます。

その上で、適正な定員管理のもと、能力・実績に基づく人事管理の徹底、多種多様な人材の確保、人材育成の一層の推進、及び女性職員の活躍とワークライフバランスを推進します。

## セルフレビュー(自己点検)

地方自治体の経営資源には「人」「物」「資金」「情報」等があり、それらの資源を運用するのは「人」であり、職員は本市行政を推進するうえでの貴重な財産です。

人事管理全般については、「戦略課題の目標」の達成に向けて取り組み、特に第2次定員適正化計画の策定を行うとともに、キャリアに応じた研修や受講者が選択する研修、女性職員が活躍するための研修を実施しました。

人事評価制度については、頑張るものが報われるシステムを構築するために、現在実施している人事評価のPDCAサイクルを推進し、一定の改良を行いました。

また、本市職員の有給休暇取得率は府内市町村の中で最下位となっていることから、連続休暇取得の啓発に取り組みました。しかし、まだまだ改善途上であり、取得しやすい環境づくりを目指していきます。

★その実現に向けて、今年度は何をするのか？

### 施策推進上の目標

良質な行政サービスを提供するうえで、職員は最も重要な要素の一つであり、職員の人材育成と士気の高揚は、行政サービスの向上に大きな影響を与えることから、OJT 研修などの職員研修の充実や、客観性・透明性を高めて、公平かつ公正な人事制度を確立するとともに、事務量の増減に対応した適正な職員配置を行います。

(最終検証) 平成28年3月25日

### 取組結果・実施状況

本年度は、適正な職員配置の実現に向けて取り組みました。  
具体的には、税収等が伸び悩む中、財政規律を守り、市民福祉の向上を図るため、中長期的な視点で、数値目標を定めた「柏原市第2次定員適正化計画」を策定し、公表しました。  
次に、市民ニーズの高度化・複雑化及び少子高齢化・人口減少にうまく対応していくためには、地方自治体の組織力が問われる時代であり、職員一人ひとりの育成及びモチベーションを高め、業務の効率化を図る目的で、能力・業務実績に基づく人事評価制度を実施するとともに、合わせて評価の公平性・公正性を向上させるために研修を実施しました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

(最終検証) 平成28年3月25日

## アウトプット

### ◎人事評価制度の確立

昨年度から新たに取り組んでいる業績評価と能力評価を組み合わせた人事評価制度の定着化を図るため、評価者研修に努めるとともに、人材育成の観点から被評価者への評価フィードバック面談や評価結果の開示を行います。

### ◎職員定員の適正化

最少の職員数により最大の行政効果が発揮できるよう取り組んでいるところですが、今後、増加が見込まれる再任用者を活用した定員管理計画を作成します。

### ◎効果的な研修の実施

OJT研修はじめ、管理職研修や中堅職員研修など階層別研修や専門研修を実施します。また、規律や災害時の連携意識を深めるため、新規採用職員を対象とした自衛隊体験研修を実施します。

## 取組結果・実施状況

### ◎人事評価制度の確立

現在取り組んでいる人事評価制度において、評価の公平性・公正性を向上させるため、評価様式の改良を行うとともに、組織における自身の役割を再認識させ、能力の向上を図るため、被評価者研修を実施しました。

### ◎職員定員の適正化

本年度は人員の削減及び再任用職員の活用を盛り込んだ柏原市第2次定員適正化計画（平成27年度から平成36年度まで）を策定しました。

今後は、計画に従って職員の定員管理を実施します。

### ◎効果的な研修の実施

当初に計画していたとおり、自衛隊隊内生活体験研修はじめ、新任管理職研修、業務改善研修、市民対応マナー向上研修、女性が活躍する研修などを実施し、参加者アンケートから、概ね意識改革が図れたとの結果を得ました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

(最終検証) 平成28年3月25日

### アウトカム

職員のやる気を引き出すことにより、職場組織における業務遂行能力の向上を図り、市民の行政サービス満足度を高めます。

このことにより、市民満足度調査の「市民サービス」などの項目において満足度を前回数値より高めます。

### 取組結果・実施状況

この項目の取組状況については、市民意識調査の「市民サービス」の項目について、前回との満足度の数値比較を行った結果、前回 3.27 から今回 3.24 となり、「市民サービス」の満足度が 0.03 ポイント下降した結果となりました。

引き続き、市民サービスの満足度が向上するよう研修に取り組みます。

(評価日) 平成28年2月5日

市長評価

(B) 奨励 : 頑張って目標を達成し、満足できる結果である。さらなる向上を目指してもらいたい。

市長のコメント

- ・再任用職員の採用について、早期に方針を策定し、再来年度の採用から実施していくこと。

(最終検証) 平成28年3月25日

今後の取組の方向性など

平成28年度は、市民サービスの向上を図るために、柏原市人材育成方針に基づき、多様な研修等を実施します。また、実施に際しては、限られた予算で最大限の効果が得られるよう計画的に行います。

## 重点課題 ④

難易度

自己評価

概ね達成

B

(評価検証日) 平成27年12月31日

(最終検証) 平成28年3月25日

## 対話型広報広聴活動の推進

★何をめざすのか、めざすべき方向は？

## 戦略課題の目標

市の広報広聴活動は、市民の暮らしをサポートするとともに、開かれた市政の実現を目指して、「お知らせ情報」をはじめ、政策課題や各種事業の取組などの情報を積極的に提供し、市民からの意見や提案を吸い上げて、当該施策及び各種事業への反映を図ります。

そのため、広報誌や公式 WEB サイト、双方向性コミュニケーション手段である SNS などを活用し、市民の意識や行動に働きかける広報、評価・結果をフィードバックする広報を目指します。

また、地方自治体における「まちの魅力 PR」の役割は益々重要性を増しています。本市の魅力为全国に広くアピールし、認知度やイメージの向上を図ることで、定住化の促進や、観光促進などにつなげていきます。

## セルフレビュー（自己点検）

市民の暮らしをサポートする「お知らせ型広報広聴活動」に加え、市民ニーズや意見を吸い上げ、施策に反映するための「対話型広報広聴活動」を推進するため、市政情報のほか、市民の自主的かつ主体的な活動や様々なボランティア活動を掲載するとともに、双方向性コミュニケーション手段である SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用しました。

また、定住化及び観光促進につなげるため、広報特集号やプロモーションビデオの制作に取り組みました。

引き続き、少子高齢化や人口減少の克服という大きな課題がある中、今後も本市の魅力を掘り起し、全国へ発信することで、移住及び定住化の促進を図ります。



★その実現に向けて、今年度は何をするのか？

(最終検証) 平成28年3月25日

### 施策推進上の目標

本市の広報広聴活動は、様々な市政情報を提供し、全ての市民の暮らしをサポートするために、毎月1回発行の広報誌「広報かしわら」や公式WEBサイト、facebook、LINE、Twitterなどの多様な媒体を活用します。

また、多様な媒体を活用し、市民との対話型の広報広聴活動を推進します。

次に、「まちの魅力」を市の内外へ発信するため、特集号を発行します。

### 取組結果・実施状況

当初の目標達成に向けて、現場での取材活動や誌面の見直しにより、市民の皆様に見やすく、分かりやすい広報誌を提供するとともに、情報発信及び双方向性コミュニケーション手段として、facebook、LINE、TwitterなどのSNSを積極的に活用しました。

広報誌においては、本市の内外で活躍されている人物を紹介する「かしわらのHERO」や、地道にボランティア活動をされている方を紹介する「ミンカツ」などの新コーナーをスタートさせるなど市民生活に密着した情報を提供しました。

また、まちの魅力を本市の内外へPRし、本市の認知度やイメージの向上を図るため、広報特集号を2回発行し、市外の主要駅にも配布しました。

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

### アウトプット

- ・広報「かしわら」を毎月1回発行します。
- ・まちの魅力を満載した広報特集号を年2回作成し、市の内外に配付します。
- ・まちの魅力情報を市外に発信するため、ポスターやチラシを作成し、大阪市内の主要駅や鉄道車両などに掲示します。
- ・公式 facebook、公式 LINE、公式 Twitter を活用します。公式 facebook の「いいね！」件数の10%増を目指します。

(最終検証) 平成28年3月25日

### 取組結果・実施状況

・毎月1回発行する広報かしわらの誌面を見やすく、分かりやすくするため、カラーページや写真情報の活用、また、表紙の文字を大きくし、目次を入れるなど、読みやすさの向上を図りました。

・広報特集号では、若者の訪問や定住促進を目的に、「大阪柏原の気になるお店・ラーメン・カフェ編」及び「大阪柏原のスゴ技編」をテーマとして、現役の大学生が選んだ市内の魅力的な飲食店や優れた技術を持った企業などを取材し、本市の内外に配布しました。また、まちの魅力情報を市外に発信するため、イベントポスターなどを市外の主要な鉄道駅に掲示しました。

・facebook の「いいね！」件数は、次のとおり20%増となり、目標を上回りました。

(H26年4月1日 1,170件)

H27年4月1日時点で 2,146件

H28年1月15日時点で 2,567件

★その取組により、何をどのような状態にするのか？

### アウトカム

市民が市政に関心を持ち、積極的に市政に参加できる環境を整えます。また、市民が「まちの魅力」を誇りに感じ、住んでみたい、住み続けたいまちとして、市民満足度が高まります。

このことにより、市民満足度調査の「市政参画」、「市民サービス」などの項目において満足度を前回数値より高めます。

(最終検証) 平成28年3月25日

### 取組結果・実施状況

第4次柏原市総合計画の政策目標5・施策目標3「市民の視点に立った適正な市政運営が行われている」という状態の実現に向けて取組を進めました。

この項目の取組状況については、市民意識調査の①市政参画、②市民サービスの項目について、前回との満足度の数値比較を行った結果、①市政参画は、前回2.85から今回2.85、②市民サービスは、前回3.27から今回3.24となり、市民サービスの満足度が0.03ポイント下降した結果となりました。

来年度以降も市民サービスの向上を図るために、広報誌及びWEBサイトなどの改善に取り組みます。

(評価日) 平成28年2月5日

## 市長評価

(C) 期待 : 一定の目標は達成できたが、もうひと頑張り。今後に期待する。

## 市長のコメント

- ・ 広報の無関心層に対する周知について、広報記事の内容とともに手法を検討すること。
- ・ 業務の専門性が高いことから広報担当職員の配属や育成について、検討を始めること。また、広報部門の外部委託や専門職員の雇用なども検討すること。

(最終検証) 平成28年3月25日

## 今後の取組の方向性など

来年度以降も、市民サービスの向上を図るために、引き続き、見やすく、分かりやすい広報誌及び WEB サイトに心がけるとともに、SNS を活用したタイムリーな情報発信に取り組んでいきます。